

# 県立多治見病院 緩和ケア病棟便り

2021年2月号

発行：岐阜県立多治見病院緩和ケア病棟

## 【緩和ケア病棟閉鎖中の現況について】

当院緩和ケア病棟は、院内コロナ対策のため昨年2020年12月22日から一時閉鎖しております。感染症病棟への入院患者急増に伴い、年末年始に向けて医療体制のひっ迫が予想されたため、閉鎖という判断に至りました。

その後当院では、12月28日から面会禁止となり、1月6日より院内の感染リスクフェーズが赤から黒に上がり、最大の警戒体制で現在に至っています。

岐阜県でも、12月25日に「医療危機事態宣言」、1月9日に「岐阜県独自の非常事態宣言」、1月13日には国の「緊急事態宣言の7府県に拡大」と厳しい状況が続いています。

年が明けてもなお感染症病棟への入院患者は続いており、緩和ケア病棟の再開はもう少し先になりそうです。未だ閉鎖中ではありますが、緩和ケア病棟の「今」をお伝えしておくべきかと思い、「緩和ケア病棟通信」を発行することといたしました。

現在、緩和ケア病棟には当然ながら患者さんはおらず、電気も節電モードで暗くなっています。

しかし、スタッフステーションでは、朝には感染症病棟へ応援に行く緩和ケア病棟の看護師が情報を収集したり、休憩にきたりして、気合を入れ直して感染症病棟へ出勤しております。さらに、遅番や夜勤等の不定期な勤務の際に使っているため、緩和ケア病棟のスタッフステーションは24時間電気がついています。

本来なら緩和ケア病棟へ入院する患者さんは、今は一般病棟で緩和ケア内科が主科で診ているので、多職種カンファレンスは定期的に継続しています。

また、緩和ケア外来や緩和ケアチームの活動は継続しており、集合して事前打ち合わせをしたり、活動後の記録を記載したりするため、医師や薬剤師もスタッフステーションに居ることが多いです。

緩和ケア病棟には、閉鎖中でもメダカは元気に泳いでおり、チューリップや水仙・ビオラ・ノースポールなどの植物が育っています。スタッフも屋上庭園に出て、外の空気を吸ってリフレッシュしています。

2月上旬の時点ですが、国内の新規感染者数は次第に減少してきているので、半月くらい遅れて入院患者数も減少してくるのではないかと考えています。これから気候が温かくなり、温度や湿度も上がってくれば、感染のリスク自体も少しは減ってくるでしょう。そして、今後ワクチン接種が進んでくれば、今後の感染はもう少し抑え込められるようになってくると思います。

人類は今までも感染症のパンデミックを乗り越えてきました。先は全く暗闇ではないと信じています。緩和ケア病棟の看護師は、感染症病棟に赴いて大変なストレスと激務の中で頑張っています。

また病棟の医師をはじめとする多職種のスタッフも、それぞれの今の役割を頑張っています。

近いうちに再開できることを信じて、日々努力している毎日です。もうすぐ、春は来ます。

緩和ケア内科部長：伊藤浩明